

学校経営方針の重点 1 学習意欲の向上 2 多様性の受容 3 安心・安全な学校 4 組織運営と人材育成の向上

○評価基準 90%以上達成A 70%以上達成B 50%以上達成C 50%未満Dとする。
 ◆自己評価方法 保護者・生徒アンケートも加味して評価(教員 50%保護者 25%生徒 25%)

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果 大変満足◎満足○、改善必要△大きな改善必要×と表記	改善策	学校関係者評価記入欄
学力向上	主体的で自立した学びができる生徒の育成	基礎学力の定着と主体的に学び、考えさせる授業の実践	主体的・積極的な取組を引き出す学習課題の設定と発問の工夫	88.5 B	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題は明確でも発問はまだ工夫・改善できる。 ・生徒の満足度が高く(◎と○で88%)主体的な取組の実感はあるようだ。保護者の満足度(◎と○で82%)が一番低い。授業の取組の情報発信、共有の必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修で発問の工夫について取り上げ、授業で実践する。 ・授業の様子を学校だよりや学校公開で意識的に発信、共有する。 	B <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な取り組みを行うためには、学習課題に対し生徒間で講師、生徒となり相互に考えさせることも必要と思います。 ・校長の学校だよりの発行する意欲を高く評価します。今後も継続してお願いします。学校内のできごとや家庭では見られない生徒の様子を教えていただけることは、とてもありがたいと思います。 ・生徒の満足度が高いのは良いと思う。保護者への情報発信を増やす。 ・学習の必要性を具体的に説明して人生の選択肢を広げさせたい。 ・提出物による評価が多く、とにかく出すことに集中し、学習している感じがとれないと感じることが多いです。 ・生徒にとって主体的な取組の実感があることはとても評価できることなので、ぜひ今後も実践していただき、その工夫の詳細をマチコミや学校 HP を活用して保護者にも共有していただけるとありがたいです。
			少人数指導・朝学習・朝読書やステップアップ活用による学力向上	72.2 B	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導が充分できていない教科・時期があった。 ・ステップアップ講師はいるが、参加生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・数学科における少人数指導の方法を工夫して実践する。(教員配置を申請する。) ・ステップアップの実施方法や時期を検討・工夫する 	B <ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップの実施方法(時期・内容)を検討し、生徒にとって魅力のある内容の充実が必要と思います。 ・英語・数学は、誰しも苦手なものだと思います。辛口で表現すると「なんでそうなるの?」という疑問に的確に答えられる教師の育成を強く望みます。 ・ステップアップは前から参加者が少なかった。成績の低い生徒だけでなく希望する子も参加させるとよいと思う。 ・以前より進学校への進学が少なくなっている。 ・参加生徒が少ないのが残念 ・成績分布の二極化から鑑みると少人数指導はとても有効だと思いますので、ぜひ実践してほしいです。 英語の少人数は、ボトムアップを狙ってのこととは思いますが、習熟度レベルが混合の組み合わせの為効果を感じられないとの個人的な意見も伺っております。できれば少人数指導では、数学も英語も各自のレベルに合った学習ができることを望みます。 ステップアップについては、通常の授業時間外である放課後等に拘束時間が発生することを考えるとなかなか参加者を増やすのは難しいように感じます。しかしながら、学習塾に通えない生徒にとっては貴重な学習機会なので、少しでも生徒の将来や進路の選択肢を広げるために必要な学習として、対象生徒および保護者への周知と意識改革も必要となると思います。

			タブレットや電子黒板等の ICT 機器を活用した学習活動の推進	91.9 A	・生徒の満足度(◎59%・○36%)教員の満足度(◎39%・○52%)と共に高く、ICT機器を効果的、積極的に活用しているのが分かる。タブレットは活用の余地がある。	・ICT機器の活用事例などを検討し、引き続き活性化を図る。 ・家庭学習、自主学習用のソフト導入を検討する	A ・タブレットや電子黒板の活用は生徒・教員の満足感が高く引き続き積極的な活用をお願いします。 ・自主学習用「ソフト」の導入は、大いに賛成です。新しい気付きと学びを習得でき、自分のこれからの進路に大きく影響し、新しい発見と意欲の向上に役立つと思います。 ・電子黒板の使用はわかりやすく良いと思うがタブレットは授業中関係ないものを見ている子がいる。 ・活用に満足している割には、結果が出ていないように思います。 ・発表形式は良いが、もっと集計形式を多用して効率的にできないか。 ・家でもタブレットを使った学習や課題の提出ができればよいと思いました。 ・社会の流れに遅れないように今後も積極的に取り組んでもらいたい。 ・ICTの活用については、家庭学習・自主学習にも活用できるように、ソフト導入をぜひすすめていただきたいと思います。
健全育成	多様性を受容し、協働的な活動ができる生徒の育成	「傾聴」を柱として互いを認め合い高め合う心を育む。	「傾聴・受容」の姿勢で常に生徒、保護者、教員の関係を築く。	86.1 B	・生徒は概ね満足している(◎と○で93%)教員の約2割が改善を必要と感じている。	・全教職員での「傾聴・受容」の方針を徹底し、情報の共有で効果を高める。	B ・相手の気持ちを理解するためにも傾聴は重要であり良い人間関係を構築するため改善活動を継続してください。 ・上記と同様に授業では、専門用語だけでなく平易な言葉で表現していくことが必要だと思います。 ・一番大事です。よろしくをお願いします。 ・まずは自分自身の考え方をしっかり持つことが大切だということを教えるべきだと思います。 ・傾聴の姿勢は理解できました。 ・生徒と教員に差が出た理由を調べてもらいたい ・生徒は概ね満足しているということなので、とてもよいと思います。引き続き、教員の感じている改善を思うように実施していただければと思います。

			生徒会活動やボランティア活動の活性化で自尊感情を高める。	80.9 B	・地域ボランティアが活発で保護者の満足度は高い(◎と○で97%)。一方、生徒(◎と○で85.8%)と教員(◎と○で69.6%)は生徒会活動を視野に入れると基準が厳しく評価はやや低い。	・地域ボランティアは引き続き広く校内で周知し多くの生徒に経験させて自尊感情を高めたい。 ・生徒会役員・担当教員を中心に学校・社会のために活動する意義を感じられる企画を検討する。	B	・地域ボランティア活動を積極的に推進しています。地域を知るためにも継続的に取り組んでください。 ・今後の学校再編にかかわることです。穏やかに少しずつ前に進ませる必要があると思います。 ・地域ボランティアは大変助かっているが、一方でボランティアの意味が伝わっていない子がいる。内容にもよるが今後今後、ボランティアの意味を周知してほしい。 ・自治会のボランティア活動には毎日協力頂きありがたく思っております。しかしメンバーが固定化している感じがします。 ・いつも同じ子ばかりの参加が多いように感じます。参加しているからには、ちゃんとするという意識で参加してほしいです。 ・地域ボランティアは参加したくなる工夫が必要だと思います。 ・生徒のボランティア参加率が高いというのは、よいことだと思います。引き続き、ぜひ1人でも多くの生徒に社会の役に立つ実感を持てる経験を積んでほしいと思います。生徒会活動では、今後PTAとも連携して対市要望の意見も出させていただけるとありがたいです。
			授業改善や学校環境整備で組織的に特別支援教育に取り組む。	79.3 B	・本校には特別支援学級がなく、連携や交流活動を行えていないので保護者や教員の満足度がやや低い。	・特別支援教育に基づく授業改善や環境整備の取組を校内委員会や職員会議で再度点検し、個人情報に配慮しながら保護者や地域に情報公開していく。	B	・特別支援学級を有する他校と情報交換を行い課題を見つけることも必要と感じます。 ・今後の動きに期待します。 ・特別に支援が必要となる生徒がこれからも出てくると思う。NPO等の方などを招いて話を聞くのも良いと思う。 ・不登校生徒への配慮詳細を確認したい。 ・特別支援教育との連携や交流活動については、具体的な取組がまだわからないので、ぜひ今後の情報公開を見守りたいと思います。
安心・安全な学校	安心・安全な居場所、学び舎としての学校作り	粘り強く生徒に寄り添い、心・身体・環境の安全を図る。	授業形態の工夫で相互理解の為の意見交流等の機会を増やす。	87.7 B	・授業での意見交換・交流は活発で生徒の満足度(◎と○で93.7%)が特に高い。生徒会、委員会また部活動でも意見交換・交流が増えている。	・授業での意見交換・交流は継続する。今後は地域交流や国際交流など様々な場面での実践に取り組んでいく。	B	・校内での意見交換・交流は活発に行われています。地域・国際交流なども含めた実践に取り組んで下さい。 ・今後の動きに期待します。 ・生徒の満足度が高いのは良い。地域交流はぜひ取り組んでもらいたい。 ・双方向の意見交換、交流はできている様子。 ・ぜひ国際交流に力を入れてもらいたい。 ・授業や生徒会・委員会・部活動等の校内での生徒間の意見交換・交流は活発とのことで、とてもよいと思います。今後はさらに地域等、校外への交流にも広げられることを期待します。

			調査・アンケート・個別面談の活用で相談体制を強化し、組織的にいじめ、不登校の未然防止を図る。	82.5 B	・生徒も保護者も満足度は8割を超えている。生徒へのアンケートは毎月実施して答えやすい環境を作っている。 ・教員の満足度(◎と○で73.9%)が一番低く、未然防止対応に手ごたえを感じていない可能性がある。	・今後も生徒、保護者への「傾聴」を実践し、いじめの未然防止・早期発見への組織対応を行う。 ・教員が校内研修を通じて未然防止対応について具体的な方策を学べるよう計画を立てる。	B	・生徒に対するアンケートは毎月実施され答えやすい環境づくりが行われています。アンケートから「いじめ」の芽を見つけ、早期発見・早期対応をお願いします。 ・今後の動きに期待します。 ・いじめはなくなることはないと思います。早期に対応するのが良い。やはり傾聴と生徒との日ごろからのコミュニケーションが大事です。 ・いじめについてのアンテナは張られている様子。 ・SNSの使い方を定期的に指導していただきたいと思います。 ・未然防止については、なかなか効果の実感を持つのが難しいとは思いますが、満足度が高い今の環境は評価すべきだと思います。今後も具体的方策を学ぶとのことで、さらなる向上に期待します。
			計画的な防災教育(避難訓練・安全指導・セーフティ教室)による教職員や生徒の安全管理の意識向上	96.2 A	・教員、保護者、生徒共に満足度が9割を超えている。学校では警察や消防署など外部機関とも連携して様々な形態の避難訓練を実施し、安全管理の意識を高めている。	・防災教育、防災設備における安心な学校作りの意識は高まっている。地域の警察署や消防署との連携を更に高めて担当教員を中心に様々な事例に対応した訓練や指導を行っていく。	A	・防火・防災教育に積極的に取り組んでいます。地域の警察署や消防署との連携を深め安心・安全な学校づくりを継続してください。 ・これらのことは、日々の生活に常に必要なことと思います。今後も継続して行ってください。 ・満足度が素晴らしい。これからも続けてください。 ・自治会防災活動にも参加して頂きありがとうございます。防災組織の中にも組み込めるとよいと思います。 ・地域や外部教育組織等との連携では、情報共有とチームワークの確立が肝要だと思いますので、今後の向上・強化に期待します。 ・警察等の外部機関と連携して、定期的に安全指導やセーフティ教室が実施されており、とても意識が高いと思います。生徒や保護者の身近に感じられるよう、今後も現実に即して紹介事例を常にアップデートしていただけるとより効果を高く維持できるのではと思います。
組織運営・人材育成	教職員が組織で教育課題、生活指導に粘り強く関わり解決する学校	研修等を通じて生徒と共に学び、組織的に授業力向上を目指す。	校内研修の充実や校外の研修受講奨励による教職員の授業力向上	88.9 B	・今年度は夏季休業中の研修受講や指導教諭の授業公開への参加を積極的に奨励できた。また、校内研修とともにOJTにも力を入れたが成果検討はこれからである。	・今後も市や都の研修を積極的に受講させ、授業観察などで授業力の向上を見取るようにする。校内研修は昨年度の成果検討を受けて具体的に実施する。	B	・教職員には市、都等の外部研修を積極的に受講して頂き授業力向上につなげて下さい。 ・先生方の研修の機会は、多々あると思いますが、日常の業務？仕事に追われる毎日ではないでしょうか。できれば校長から発言し参加増を図っていただきたいです。 ・様々な経験が必要であり人間性の幅を広げてほしい。 ・今後に期待 ・いじめを受けているのは少人数のため、改善が必要と印をつけた意見をしっかりと聞いてあげていただきたい。 ・通常の校務も大変忙しい中、様々な研修や授業公開への参加等実施しており、教員の方々の努力に頭が下がります。ぜひよい成果となるよう見守りたいと思います。

		校内研修やサポーター研修で授業のICT活用力向上を目指す。	・ICT活用力は向上したが、その点に関する校内研修は充分ではない。	・ICT活用力の高い教員がリーダーとして校内研修を行う。具体例の実践をOJTで取り組む。	B ・ICTの活用は向上したが校内研修は不十分であり、ICT活用力が高い教員がリーダーとなり教職員の課題解決力、生徒指導力の底上げをお願いします。 ・今後も継続して行ってください。 ・ICTはツールであり、目標、起承転結を明確にして使用してほしい。 ・ICTの活用については、教員ごとの得意不得意の差が大きいため、具体的な活用法を共有して向上していただければと思います。
		地域や外部教育組織等と繋がり行政、福祉、教育が連携して生徒を育成する。生徒達の生育や学びの背景を捉えた生活指導を心掛ける。	・今年度も学区の市民センターとの連携は充実していた。また、子ども家庭センターや児童相談所とも情報交換を行い、密に連携できた。 ・校内ではSCや特別支援教室の教員と情報共有し、連携を取りながら個々の状況に応じた生活指導を試みた。	・地域や外部教育組織等とのつながりを全て記録し、教員によって対応が変わらないように配慮する。 ・教職員や学校関係者が教育と福祉、行政とのつながりを「法令面」「人権面」等の視点で学んでいく。生活指導対応は複数の教員で行うことを徹底する。	B ・子ども家庭センターや児童相談所等、関連機関との情報交換が密に連携できた。福祉・行政との繋がりを教職員で共有し生活指導力の向上につなげて下さい。 ・とても良い配慮だと思います。継続して行ってほしいです。 ・青梅学だけでなく地域の協力を得て新町学をやっていただきたい。 ・地域イベントの参加は生徒だけでなく保護者(PTA)を含めてやりたい。 ・地域や外部教育組織等との連携では、情報共有とチームワークの確立が肝要だと思いますので、今後の向上・強化に期待します。